

水産増殖部

兵庫県水産技術センター

水産増殖部は、沿岸資源（魚介藻類）の増養殖技術の開発と革新、病害防除と防疫を主な業務としています。兵庫県の主要な養殖対象種であるノリ・ワカメ・アサリ・カキ等を対象に、生産現場に密着した種苗生産技術や養殖技術開発、養殖指導を実施しています。一方、病害防除では種苗生産施設の防疫対策、養殖場における防疫パトロールや疾病発生時の緊急対策、水産用医薬品の適性使用の指導等を行っています。



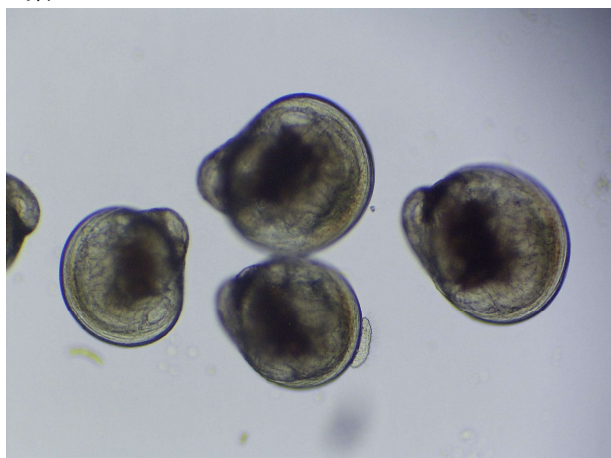
ノリ養殖技術開発

「こだわりのあるノリづくり」を目指して、品種改良や養殖指導に取り組んでいます。写真左：ノリ糸状体（担孢子嚢形成） 右：ノリ葉体（生産期）



ワカメ養殖技術開発

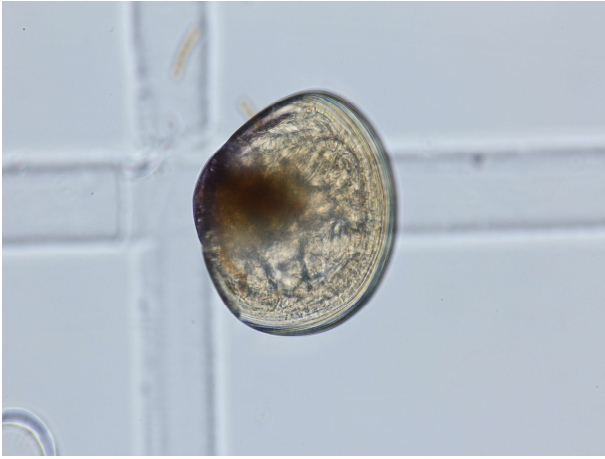
ノリに続く新たな養殖藻類として期待の高まるワカメについて、フリー配偶体を用いた品種改良、養殖技術開発や養殖指導を行っています。写真左：芽胞体（室内培養） 右：ワカメ養殖風景



カキ養殖技術開発

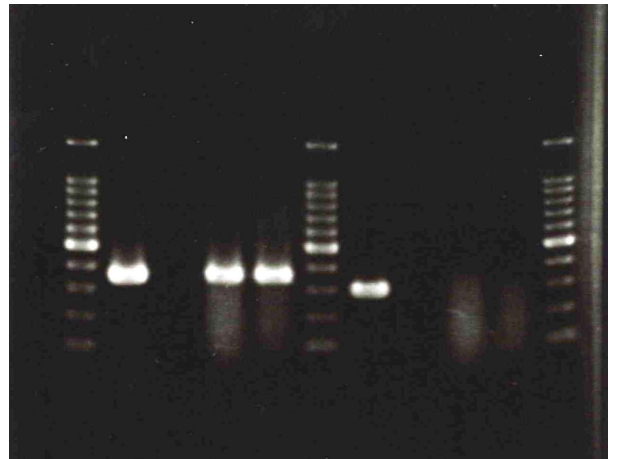
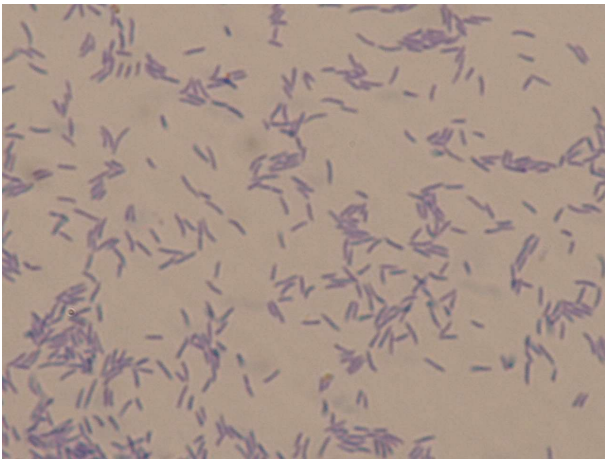
高品質な兵庫のカキの量産化、シングルシード（一粒ガキ）養殖技術の開発や養殖指導に取り組んでいます。写真左：カキの幼生 右：カキのバスケット養殖風景





アサリ増養殖技術開発

身入りのよい「極上アサリ」を目指して、成長の早いアサリの選抜育種、漁業者自らが実施できる種苗生産技術の開発や養殖指導を行っています。写真左：アサリの幼生 右：殻から身があらふれ出る兵庫の「極上アサリ」



魚類防疫対策試験

養殖魚介類に疾病が発生した時には、最新の技術を駆使して寄生虫検査・細菌検査・ウイルス検査等を迅速に行い、対策方法や予防方法を指導しています。また栽培漁業センターで種苗生産される魚類や甲殻類等の親の検査を行い、種苗生産施設での疾病の蔓延を未然に防止しています。写真左：分離されたシュードモナス症原因菌 (*Pseudomonas anguilliseptica*) 右：RT-PCR検査によって原因ウイルスを特定